

**令和5年度
中国四国農政局技術検討会（第4回）
（国営事業 事後評価）**

議 事 録

（事務局）

それでは定刻になりましたので、引き続き令和5年度中国四国農政局技術検討会を開催します。中国四国農政局土地改良管理課川嶋です。よろしくお願いします。
それでは、ここから委員長代理の河口委員に議事進行をお願いいたします。

（河口委員長代理）

それでは、議事次第4『令和5年度国営土地改良事業「香川用水土器川沿岸地区」事後評価書（案）』について、事務局より説明をお願いします。

（事務局）

～資料説明～

（河口委員長代理）

はい。ありがとうございました。

アブラボテについて、平成28年度に確認されたが、最近では確認されなかったということか。

（事務局）

そのとおりです。

（河口委員長代理）

分かりました。

事業に伴い、水路の生物が減っているものもいるし増えているものもいる。本地区だけでなく、タナゴ類をどのようにして水路で上手に保全していくのが課題である。そのような印象を受けた。

本地区の事後評価書（案）について、そのほかご質問、ご意見はございませんか。

（駄田井委員）

資料3-2の73ページについて、事業実施前と実施後で魚類の種類が大きく変わっている。数は増えているが、いたものがいなくなったり、いなかったものが増えたりしている。プラスの評価でよいのか。どう評価すればよいのか。

（河口委員長代理）

難しい。まず魚類の種数が増えており、改修後に全体的に個体数が増えていることはいいことかと思う。ただ、魚類としては、つくられた環境に合わなかった種はでていき、つくられた環境に合う種が入ってきた、あるいは残っていると思う。

こういう細い水路での評価事例はそれほど多くなくて、どうしてこういう結果になったのか言い切るのは、なかなか難しい。

先ほど申したとおり、保全が求められているようなタナゴ類や二枚貝が減ってきているのが大きな課題であるので、なんとか残していけるような整備方法について、研究面からもっと示されるといい。単純に個体数が増えたのは、評価していいかと思う。

(駄田井委員)

ありがとうございます。

(佃委員)

魚類というのは、春夏秋冬すべてに見られるものなのか。季節によって変わってくるものなのか、調査する時期によって違うものなのか。

(都築農村振興部長)

環境調査は、一般的にすべての季節で行っています。なお、魚類によってその生活史も様々で、季節によって活動する時期も変化します。

(佃委員)

調査は一年を通じて行うのか。

(都築農村振興部長)

そのような調査が多いと思います。

(佃委員)

ありがとうございました。

(豊田委員)

資料3-2の73ページについて、ブラックバスは評価対象外としているということだが、外来種が増えてしまうと、在来種に与える影響はないのか。

(都築農村振興部長)

ここではあくまで事業計画の中の環境配慮に対する評価であって、その意味でブラックバスは対象外としています。事後評価の位置づけとしてブラックバスを評価対象外としているのであって、環境への悪影響を及ぼすから対象外としているものではありません。

(豊田委員)

整備したことによって、外来種が増えてしまったということがあるのかと思った。

(河口委員長代理)

ブラックバスは、確認された数としては多くないと思っていた。大量に増えているということであれば、対策を考えなくてはならないかもしれない。

農業用水路は、水が多い時や少ない時がある。少ない時はあまり水路に入れないとか、鳥に食べられたりすると思う。年間を通して水深が安定していて、外来種が入ってきたりすると、在来種は食べられてしまう。本地区ではそれほど影響はないと思うが、今後、著しく外来種が多くなったりすれば、何かしらの対策を考える必要があると思う。

その他、他の2地区も含めて、全体を通して、ご意見等あればお願いします。

(豊田委員)

今後の要望として、ここで示されている評価項目以外でも、こういうものを評価してはどうかという意見を述べたい。

どの事業においても、担い手不足が進み、雇用者数も減少しており、人口が減ってしていくことが予想されている。前回の技術検討会で関係人口の創出なども考えていきたいとのお話もあったが、担い手の育成という直接的なことも含め、それ以外の人達との関わり、多様な人材との関わりを評価していけばいいのではないかな。

また、気候変動に関すること、農業と脱炭素に関わるものも評価をしていかなければならないのではないかな。温室効果ガスの排出を抑制するような取組、例えば、田んぼの中干し期間を長くすることによるメタン排出抑制とか、田んぼダムの取組なども評価していく必要があるのではないかな。

(河口委員長代理)

はい。ありがとうございます。

従来の評価軸ももちろん大切。これから変化していくことが見えている部分、地域を支えていくうえで大きな課題となる部分を、もともとつながっている一次産業とどうつなげ直すのか。特に、地域の若い人達も含めて、関係する人達の輪をどう形成するのかが非常に重要なことかと思う。

(都築農村振興部長)

事業効果の算定項目の中に、どう入れていくのかは難しいですが、例えば、香川用水土器川沿岸地区の基礎資料44ページに、費用対効果の算定項目には含めていませんが、都市農村交流促進効果を参考として試算しています。こういった地域における観光資源を活用した地域住民との活動などを、事業の評価項目として入れていくことも検討の一つと考えます。

また、気候変動に対する温室効果ガスの抑制について、どのように評価していくのかというのは難しいが、遅かれ早かれ、算定項目の中に入るのではないかと思います。特に、中干しについては、水門の管理により大きな面積を集中的に管理できるのであれば、効果としては考えられると思いますが、これをどのように金額として算定できるのかは、今後の課題と思います。

(河口委員長代理)

ありがとうございます。

この部分の議論は、この技術検討会の中だけでは決まらないでしょうし、いろいろな意見が他の地区でも出てくるかと思う。そういったところでも議論を進めていただければいいのではないかなと思う。よろしくお願いします。

他にご意見等はございませんか。

(駄田井委員)

気候変動について、現在、雨の降り方が異常になっているなかで、農業用水路を整備することで、リスクヘッジができていのかどうかといった効果は算定できないか。災害防止効果は既にあるが、一次産業への影響を防止したことなどの効果が算定できればいいのではないかな。

(河口委員長代理)

国交省では、最近、流域治水の取組を関係省庁と連携して進めている。河川だけでは氾濫は防げないので流域全体で治水に取組もうとしている。上流の森から河川、農地まで、少し

前から田んぼダムや農地の持つ多面的機能など、治水対策としてどれくらい効果があるのかという研究が始まった。そのような研究がさらに進むと、駄田井委員のご意見は、評価軸の中に入ってくるようになるのではないかという気がする。

(都築農村振興部長)

田んぼダムについては農水省で行っているものですが、田んぼダムの機能を持たせる施設の整備とか、ダムなどの事前放流について、どのように効果算定していくかは、今後の課題と思います。

(河口委員長代理)

その他、ご意見等はございませんか。

それでは、次に議事次第の5「技術検討会の意見取りまとめ」を行います。しばらく時間が必要となりますので、議論の時間を30分ほどいただいて、議事を再開したいと思います。

(事務局)

それでは、技術検討会委員以外の皆様は、いったんご退席をお願いいたします。

－ 技術検討会の意見取りまとめ －

※ 意見取りまとめ後、事業管理委員会委員着席。

(河口委員長代理)

それでは、議事を再開したいと思います。技術検討会の意見取りまとめについて、読み上げて提示させていただきます。

－ 技術検討会の意見（提示） －

(河口委員長代理)

以上ですべての議事を終了しました。それでは進行を事務局にお返しします。

(事務局)

河口委員長代理、ありがとうございました。また委員の皆様におかれましても、ご審議いただきましてありがとうございました。

本日いただきました技術検討会の意見を踏まえて精査した評価書案につきましては、7月下旬に局内手続きを踏まえ、農政局長名で本省の方へ報告いたします。なお、技術検討会の議事内容につきましては、各委員のご確認をいただいた上で公表することとなります。

本省報告後も、本省では全国の対象地区と併せて審査が続きます。さらに指摘があった場合は修正を行うこともあります。そのため、簡易な文書の整理等につきましては、事務局に一任いただきまして、必要に応じて委員長に確認させていただくとともに、委員の皆様にご確認が必要であると判断された場合はご連絡いたしまして、ご相談させていただくことをご承知おきいただければと思います。

それでは、閉会にあたりまして、中国四国農政局事業管理委員会委員長の都築よりご挨拶申し上げます。

(都築農村振興部長)

— 都築農村振興部長挨拶 —

(事務局)

以上をもちまして、令和5年度中国四国農政局技術検討会を閉会させていただきます。本日はありがとうございました。

(参考) 中国四国農政局技術検討会の概要

1 日 時

令和5年7月14日(金) 13:00～15:30(再評価含む)

2 場 所

岡山地方合同庁舎1階 土地改良技術事務所研修室

3 出席者

【中国四国農政局技術検討会】

河 口 洋 一	国立大学法人徳島大学大学院社会産業理工学研究部 准教授
駄田井 久	国立大学法人岡山大学グローバル人材育成院 准教授
佃 俊 子	東讃地区生活研究グループ連絡協議会 会長
豊 田 知 世	公立大学法人島根県立大学地域政策学部地域政策学科 准教授

【中国四国農政局国営等事業管理委員会】

都 築 慶 剛	農村振興部長
諸 岡 弘 文	地方参事官
愛 宕 徳 行	農村振興部水利整備課長
佐々木 一 郎	四国土地改良調査管理事務所長

【事務局】

川 嶋 等	農村振興部土地改良管理課長
山 本 竜太郎	農村振興部土地改良管理課農政調整官
小笠原 祐 二	四国土地改良調査管理事務所調査課長

4 提出資料

- ・議事次第
- ・出席者名簿

【事後評価 香川用水土器川沿岸地区】

- ・中国四国農政局技術検討会(第1回)議事録(案)
- ・資料3-1 国営かんがい排水事業「香川用水土器川沿岸地区」事後評価結果書(案)

- ・資料3-2 国営かんがい排水事業「香川用水土器川沿岸地区」事後評価結果基礎資料（案）
- ・資料3-3 国営かんがい排水事業「香川用水土器川沿岸地区」事業の効用に関する説明資料（案）
- ・資料3-4 地区概要説明資料